

「山添村地方創生交付金事業」

令和3年度進捗状況

(重要業績評価指標(KPI)・取組実績)

令和4年8月

やまぞえ未来創生計画推進本部

地方創生推進交付金（村単独事業） 検証シート

1. 交付対象事業

| | |
|------------------------|--|
| 名 称 | 東豊ベース「てんぐの郷」プロジェクト ～身近な地域資源を活かし、人と地域の自立を育む～ |
| 事業実施期間 | 令和3年4月から令和6年3月まで (令和3年度から令和5年度までの3年間) |
| 令和3年度交付金 対象事業経費(実績) | 10,856,700円 (うち1/2は内閣府地方創生推進交付金を充当) |

2. 本事業における重要業績評価指標(KPI)

| 指 標 | 現状値 | 最終年度 目標値 (R6年3月) | R3年度 目標値 (R4年3月) | R3年度 達成状況 (R4年3月) | | 担当課 |
|--|-----|------------------------|------------------------|-------------------------|------------|-----------|
| | | | | 数値 | 進捗率 (%) | |
| 「ナリワイを育む取組」における 新たな特産品の販売額 | 0千円 | 600千円 | 150千円 | 180千円 | 120 | 総合 政策課 |
| 「ナリワイを育む取組」における 村外のイベント等での商品販売 額 | 0千円 | 700千円 | 200千円 | 70千円 | 35 | 総合 政策課 |
| 「ヒトを育む取組」における 講座や塾への参加者数 | 0人 | 400人 | 100人 | 305人 | 305 | 総合 政策課 |
| 本事業を通して活用した空き家 数 | 0件 | 6件 | 2件 | 1件 | 50 | 総合 政策課 |

備 考

【KPIが未達成であった理由】

・「村外のイベント等での商品販売額」については、当初計画していた複数回の村外イベント等出店が新型コロナウイルスの影響により1回(名古屋市中区「暮らしの朝市」イベント)のみの出店となってしまったことによるもの。また、村外イベント等での販売物が、現状では農産物やそれらを加工したパンやケーキなどが主であるため、販売単価が低いことも原因の1つと考えられる。

・「本事業を通して活用した空き家数」については、「講座や塾への参加者数」が目標値を大きく上回っていることから分かります。関係人口増加が図れている一方で移住人口につなげられていないことが原因である。実施している田舎暮らし体験や農業体験・その他講座等が、コロナ禍での3密を回避するための短時間・一過性の取組になっていることも原因の1つと考えられる。

【KPI実績を踏まえた今後の事業の見直し方】

今後新型コロナウイルス感染症の収束を見据え、村外のイベント等への参加回数を増やすことで、生産者等のやりがいを高めていく。また、農産加工品の開発等による高付加価値化やインターネット販売等に今後着手することで、個人所得低下の解消につなげていく。

空き家の活用については、インターネット等による体験の提供や効果的な情報発信、また今後整備するハード整備等も活用しながら、関係人口で留まる村外関係者のスムーズな移住を推進し、その定着を図っていく。

3. R3年度成果および今後の取り組み

| 事業名 | 事業概要 | | 事業費 (円) | 担当課 |
|---|--|--|--|-------|
| ●ソフト事業 ヒトを育む取組 | R3年度 事業概要 (計画時点) | <p>ターゲットや手法を限定し、事業推進体制の確立と事業への賛同者やファンの確保～拡大を進める。</p> <p>①創造力育成事業により、主たるターゲット(受講者)を村内住民とし、事業周知と賛同者の確保、講師となる住民の育成を進める。</p> <p>②田舎暮らし塾事業により、地域歩きや祭りへの参加など、都市住民に地域を知ってもらうためのイベント型の企画を中心に実施する。コロナ感染症が収束しない場合は、オンラインやWEBセミナー形式を採用する。</p> | 1,800,000 | 総合政策課 |
| R3年度 主な成果・ 今後の取り組み等 | <p>・「農・食・情報発信について学ぶ～好きをビジネスに変えるチャンス」と題し、村外有識者を講師としたzoomセミナーを実施。</p> <p>・東豊館において「ひがしトヨがいい所だっって知ってもらうこと」にトライしようヨーイドンの会」と題し体験型トライアルイベントを実施。村外有識者によるテントサウナや裏山を活用したトレイルランなどの自然体験、またオーガニックBBQの提供方法など、自然や食を活用した新たな体験プログラムの提案を受けた。</p> <p>・それらを体験した東豊ベースの方々は、「ハロウィン」イベント、「Re:ベース」イベント、その他プール開きやキャンプ受入れなど各種体験イベント等を実施。</p> <p>今後は、R3年度におけるセミナー等を参考にしながら、東豊ベースが行う体験等を精査・改良しながらその事業化をめざす。新型コロナウイルス感染症の収束を見計らい、徐々に村外の参加者も対象としたイベント等も実施していき、引き続き講師等ヒトの育成を行っていく。</p> | | | |
| ●ソフト事業 ナリワイを育む取組 | R3年度 事業概要 (計画時点) | <p>事業実施主体の主財源とし得る特産品の企画～開発に着手するとともに、既存の農産物・農産加工品も含めたブランディングを進める。</p> <p>①特産品開発事業は、専門家を交え、「茶」や山菜・野草等の地域資源を活用した特産品の開発を進める。</p> <p>②販路拡大事業は、既存の農産物・農産加工品や今後新たに開発する特産品の統一したブランディングを進め、名称やロゴマークを決定するとともに、ふるさと納税の返礼品としての利用や村外で開催されるマルシェ等への出店を実施する。</p> | 3,200,000 | 総合政策課 |
| R3年度 主な成果・ 今後の取り組み等 | <p>・東豊ベースプロジェクトロゴマークの制作。</p> <p>・東豊ベースプロジェクトスローガンの制作。</p> <p>・商品開発講座及びレシビコンテスト(地元産品を使用したレシビ募集)を実施。</p> <p>・茶の実オイルシヨコラ、山添産大豆・小麦を使用したきなこ揚げパン等の試作及び試供を実施。</p> <p>・名古屋市東別院「朝市マルシェ」への出展。茶の実シヨコラの試供、営農組合お米の販売や地元事業者の商品販売などを行い、都市における購買者の反応をモニタリング。</p> <p>今後は、開発したロゴマーク等を使用しながら、引き続き茶の実オイルやその他地域資源の商品化をめざし、販路拡大を図っていく。</p> | | | |
| ●ソフト事業 情報を活用する取組 | R3年度 事業概要 (計画時点) | <p>地域の魅力や事業の情報を発信・配信するための設備を整備するとともに、素材とする映像やWEBサイトを制作し、情報の活用を開始する。コロナ感染症が収束しない場合は、オンラインツアーやWEBセミナー形式の企画を積極的に実施する。</p> | 3,000,000 | 総合政策課 |
| R3年度 主な成果・ 今後の取り組み等 | <p>・東豊ベースホームページの制作。</p> <p>・東豊ベース活動内容周知のための映像制作。</p> <p>・その他イベントや活動周知のためのチラシ等の制作。</p> <p>今後もこれら媒体の活用やオンラインツアー等の実施により効果的に活動の周知に努め、現地での体験に限らないPR活動により関係人口やファン増加を図り、さらなる交流人口増加をめざしていく。</p> | | | |
| ■ハード事業 (1)交流拠点基礎整備 (案内看板設置) (2)交流拠点基礎整備 (門扉取替) (3)交流拠点付帯施設設計 (トイレ・シャワー改修、 野外炊事場改修) | R3年度 事業概要 (計画時点) | <p>ソフト事業を推進するための初動段階のハード事業として、旧東豊小学校を事業拠点とするための最低限の整備及び次年度工事予定施設の設計を実施する。</p> | (1)745,800 (2)689,700 (3)1,421,200 | 総合政策課 |
| R3年度 主な成果・ 今後の取り組み等 | <p>・東豊ベース案内看板の新規設置。</p> <p>・東豊館入口門扉を魅力的なものに取換。</p> <p>・付帯施設(トイレ・シャワー棟及び野外炊事場)の改修設計を実施。</p> <p>今後は、付帯施設改修設計書に基づき改修工事を行い、また特産品加工施設の設計及び整備を行っていくことで、事業推進主体の自立自走に欠かせないハード整備を継続していく。</p> | | | |
| R3年度事業費合計 (1/2は内閣府地方創生推進交付金を充当) | | | 10,856,700 | |